



山梨岳連報

第 95 号(不定期)
令和 4 年 2 月 1 日
発行 山梨県山岳連盟
編集 広報委員会
(甲府市湯田)

定期総会の開催と令和3・4年度の役員選出

令和 3 年 5 月 15 日(土)に甲斐市の敷島総合文化会館大ホールにおいて、令和 3 年度山梨県山岳連盟定期総会を開催した。昨年は新型コロナウィルス流行により全国に緊急事態宣言が出された状況で開催できなかつたので 2 年ぶりの開催となる。来賓や顧問、評議員に案内せず最小の規模で開催した。

会長挨拶後にただちに議事に入り、規約により会長が議長の任をとり、まず令和元年度及び令和 2 年度事業報告並びに一般会計・特別会計の収支決算報告が事務局よりなされ、監事による監査報告の後、出席者に承認された。次に、事務局から令和 3 年度事業計画(案)及び収支予算(案)の提案があり、原案どおり承認された。

また、本年度は令和元年度に選出された役員が 2 年の任期を満了することから役員改選の年である。小宮山会長の意向として、新型コロナの影響でほとんど主だった事業ができなかつたことから、基本的に現在の役員は残留してもらいたいと、総会前に行われた理事会において説明があり、承認された。総会において、副理事長の辻敏夫氏を新たに副会長に推薦し、会長、副会長 4 名、監事 3 名、理事長、副理事長 3 名の選出が行われたのち閉会した。

各委員会の委員長及び常任理事については、次の 6 月 2 日に開催の理事会において、会長たちから推薦されたのち承認され、令和 3 年及び 4 年度の役員全てが決定となつた。

(理事長 望月)

※本紙上「新型コロナウィルス感染症」を「新型コロナ」、「新型コロナウィルス」などと略している場合あり。

役職名	氏名	所属	委員会等
会長	小宮山 稔	南嶺会	
副会長	舟久保元孝	御坂山岳会	遭難・国際
〃	磯野 澄也	甲府昭和	自然保護・普及・カレンダー
〃	望月 啓治	雪稜クラブ	広報・SC・個人
〃	辻 敏夫	からまつ	指導委員長、医科学
理事長	望月 啓治	雪稜クラブ	副会長兼務
副理事長	中澤 弘雄	御坂山岳会	指導、遭難対策
〃	金丸 祐司	御坂山岳会	事務局長
〃	中川恵美子	白鳳会	自然保護委員長
常任理事	深澤 英仁	嶺朋クラブ	会計出納員 (兼)遭難対策委員長
〃	安藤 英一	白鳳会	遭難対策委員長
〃	中島 陽子	個人	SC委員長
〃	矢花 誠司	嶺朋クラブ	SC副委員長
〃	望月 英昭	山梨大学	広報委員長
〃	石原 佳典	樅の木山岳会	広報副委員長
〃	今村 量紀	岳心会	国際委員長
〃	中島 純穂	岳心会	自然保護副委員長
〃	神宮司孝之	山猫	普及委員長
〃	植松 一好	白鳳会	普及副委員長
〃	角田 元	日本山岳会山梨支部	医科学委員長
〃	温井 一郎	こまくさ山の会	カレンダー委員長
監事	羽田 政人	御坂山岳会	
〃	近藤 孝久	からまつ	
〃	小沢 利一	笛吹山岳会	

※常任理事の順序は、原則として委員会の順

小宮山 稔 会長のあいさつ

令和 3 年 5 月の岳連総会において、引き続き山岳連盟会長を務めることとなりました。2019(令和元)年に会長に就任した際、創立 80 周年に向け新たなスタートを切ったつもりでしたが、武漢で発生した新型コロナウィルス感染症が瞬く間に世界を席巻し、東京五輪を含め多くのスポーツ競技や多様な催しが延期または中止となりました。岳連においても、予定した講習会や登山教室など多くの活動が中止や制限を余儀なくされました。



ワクチン接種の効果の表れか、年末に一時沈静に向かった感染者数は、オミクロン株の出現により劇的に増加しています。今後、感染が無くなることはないと思いますが、行動制限が無くなつた後の with コロナに対応した、新たなスタイルによる登山活動やスポーツクライミング、遭難対策、高山植物保護など多岐にわたる岳連活動を、今後どのように実践していくのかを考え行動しなければなりません。また、組織や財政基盤の強化など取り組むべき課題はたくさんあります。今後ともご理解ご協力を宜しくお願いします。

今後の方向性

令和 3 年 6 月 20 日の(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会(以下「JMSCA」)総会において新たに丸誠一郎会長が選出された。10 年ほど前には登山とスポーツクライミングが両輪となって日山協(現 JMSCA)を運営していくと当時の会長は挨拶していたが、登山月報 628 号にある丸会長の挨拶文にはそのような記載はない。同号には JMSCA の令和 2 年度の収支決算がある。経常費用では登山部は全体の約 6% に対し、スポーツクライミングなど競技関係は 70% 以上と大きな差があり、経費上両輪と言えないので理解できる。2008 年国体のスポーツクライミング導入から 10 年以上経過し、オリンピック競技で今後もこの傾向が続くことは必至である。この度の新会長の就任に伴い数名の役員も交代しており、県岳連の法人化を強く推奨してきた理事が退任したことで今後どのような影響があるか注目される。しかし、状況がどう変われども最も重要なことは、本岳連が何を理念とし何をするかということ、更に言えば誰が何をするかということであり、法人化してもしなくとも結局はそのことが最も基本的なことで大切なことである。(理事長 望月)

第76回三重とこわか国体への取り組み

山梨県代表選手選考会

令和3年4月25日(日)山梨市のクライミングジムActiv-Aで三重とこわか国体山梨県代表選手選考会を開催し、選手9名、スタッフ9名と少人数だが、初めてリードとボルダリングの2種目での選考を行なった。例年、山梨カップとして代表選考希望者以外にも広く参加を求める大会となるところだが、コロナ禍のため感染防止を最優先とした。エントリーは少年男子1名、少年女子2名、成年男女各3名と本県スポーツクライミングの競技人口の少なさが表れ、特に少年カテゴリーは早急に検討しなければならないと考える。

競技運営スタッフのスキルアップも図る本大会であるが、感染対策によって確実に動けるスタッフのみでの対応となり、新たに運営スタッフとして受け入れられたのは1名のみとなった。

<代表選考会結果>

- ・成年男子 小林信哉 村井聰
- ・成年女子 戸田萌希 宮下涼
- ・少年男子 花田零
- ・少年女子 三枝柚葉 宮澤華苑

第76回国体関東ブロック大会(栃木県)の状況

本国体への出場をかけ、6月19日(土)、20日(日)に栃木県壬生町総合運動場体育館で国体関東ブロック大会スポーツクライミング競技会が行われ、成年女子、少年男子、少年女子の3種別において、リードとボルダリングの競技が行われた。

本国体へ出場できるのは上位3チームであり、本県チームは成年女子がリード4位と健闘したが、総合では5位となり通過を逃した。出場選手等と結果は次のとおり。

- 成女 選手:戸田萌希、宮下涼 監督:石原佳典
リード4位、ボルダリング5位、総合5位
少男 選手:花田零、鶴田僚 監督:渡辺真二郎
リード8位、ボルダリング8位、総合8位
少女 選手:三枝柚葉、宮澤華苑 監督:田中孝治
リード8位、ボルダリング8位、総合8位
役員派遣 審判員:中島陽子、村松久徳

第76回三重とこわか国体の中止

10月1日(金)～3日(日)に三重県菰野町において開催予定の本国体に本県から成年男子 SCチーム(監督:矢花誠司、選手:小林信哉 村井聰)が出場する予定であったが、新型コロナの蔓延により8月26日に中止が決定した。なお、希望する選手には出場資格証明書を発行するとの通知が後日あった。(R4.4.31まで)

山梨県体育祭り「スポーツクライミング競技」

9月26日(日)に小瀬スポーツ公園クライミング場でリード競技を①グレード11a以上クラス、②グレード10d以下クラス、③年齢50歳以上クラスの3種別で実施予定であったが、新型コロナの蔓延により8月20日に主催者の判断で中止の決定がなされた。

なお、例年、この大会以後に行われる関東小中学生

選抜クライミング大会、高校選抜クライミング選手権の山梨県予選会を兼ねていたが中止のため、やむを得ず参加希望者を募ることとした。

第7回関東小中学生選抜スポーツクライミング大会

11月21日(日)群馬県前橋市において関東地区山岳連盟主催、群馬岳連主管で同大会が開催された。

県体育祭りが中止となり予選ができず、さらにコロナ禍で他県への移動を伴う参加のため積極的な声かけができなかったが、3名の女子(小学1名、中学2名)が参加した。このうち勝俣選手(小学女子)は予選を通過し、8位と健闘した。

今大会の開催順番は山梨であるが、コロナ禍で開催不可能としていたところ、群馬が開催してくれた。次回開催は、特別なことがない限り本県開催となる。今回は、会長、理事長、SC委員長など4名が視察を兼ね大会スタッフやコーチなどで現地に赴いた。

TOKYO2020オリンピックSC競技への参加

8月3日から4日間、東京・青海アーバンスポーツパークで行われたスポーツクライミング競技の競技ボランティアとして、本県からビレイヤー1名(矢花)、コーチルーム1名(中島)、オメガスタッフ1名(村松)の計3名が参加した。大会期間中は心配されていた天候も、大きく崩れることなく、ほぼ全て予定通りの進行であった。

男子は残念だったが、女子は2名がメダルを獲得することができ、このようなスポーツクライミングの歴史に残る記念すべき大会に携われたことをとても嬉しく思う。(SC委員長 中島)

クライミング体験会2021

SC(スポーツクライミング)委員会の主催により10月3日・10日の2日にわたりクライミング体験会を開催した。山梨県山岳連盟の会員でクライミングに興味があるものの周りに経験者がおらず体験機会の無い者を対象に募集したところ10名の定員にオリンピックの影響もあってか16名の参加となった。初日は小瀬スポーツ公園クライミング場を予定していたが、改修工事のため2日とも岩場で実施した。

1日目は甲府の千代田湖付近の白山、2日目は山梨市の兜山の岩場。どちらも10月ではまだ暑い場所だが、首都圏からのクライマーの混雑を避け、あえてこちらを会場とした。当日は曇り模様の天気となつたため、結果オーライで暑すぎるということもなくまずまずだった。

60代から20代の学生と幅広い年代の人達があつまり、世代を超えてみんな一生懸命、楽しく、そして、時には必死に登っていた。2日目にはリードクライミングにも挑戦してもらい、見事にレッドポイント(完登)する参加者もいた。

教える側は、外の岩場での大人数の講習は初めてのため、登りのテクニック的なところまでは細かく伝えられなかつたが、体験という意味では大成功であり、スタッフや参加者同士の交流も深められ、有意義な体験会となつた。(SCスタッフ 石原)

コロナ禍の自然保護活動と山岳レインジャー

令和2年は新型コロナの影響で、あたかも登山が禁止されたかのような状況下での山岳レインジャー活動(高山植物調査)となった。委託側の県から、当面中止と言ってくるのではないかと心配したが、コロナ対策をしての活動が可能とのことで令和2年、3年ともほぼ例年どおりの活動ができた。人間が入らなくなった山、人が自然に及ぼす影響を垣間見ることが出来た。野生動物の暗躍したお花畠、あつという間に植生は変わり、もとのお花畠に戻すことの大変さ、自然保護活動の大切さを身に染みるものとなった。

本連盟の山岳レインジャー業務は、14年前から現在の様式となり、調査対象の指定された特定種も年々増え現時点で25種ある。これも本連盟が着実に成果を出していった賜物と思われる。

調査は4月から9月までの半年間、2人1組の班編成で出動延べ人数304人。南アルプス北部、八ヶ岳南部、奥秩父、御坂山塊などの高山山域を特定植物の定型的なモニタリングと探索の活動を行う。また、スキルアップのための高山植物の現地学習会も7回実施した。

レインジャー業務以外では、三ツ峠、甘利山などの防鹿柵、草刈りなどの地道な自然保護活動を実施。地味な活動だが、『自然保護活動に参加してみたい』と思われる方々をもっと増やしていけたらと思う。

(自然保護委員長 中川恵美子)

山岳遭難の状況とコロナ禍の活動

山梨県警ホームページの情報では令和元年の県内の山岳遭難は165件、令和2年は111件であった。令和3年は掲載数字を足していくと107件ということになっている。コロナ禍によって全体の登山者数が減り、これに比例して遭難件数が減っている様子がうかがえる。

また、警察や病院等公的機関は、遭難救助の際は要救助者がコロナ羅患者の前提で接触・行動するため、遭難しないよう無理のない登山や、コロナで低下した体力のことも考えて登山していただくことが重要と考える。

当委員会では、コロナ禍で講習会等を計画するも、それ自体が濃厚接触必須なので、中止せざるを得ない残念な状況である。1日も早く講習会等を開催できるようになることを願う。(遭難対策委員長 安藤)

指導委員会の活動状況

今年度もJMSCA主催研修会・講習会は、できる範囲でのオンライン開催や延期・縮小が続いている。そんな中、令和3年夏にはJMSCA指導委員会が『夏山リーダー基礎編』テキストを完成した。これにより、現在新型コロナ対応でやや低調になっている『夏山リーダー』の全国標準化された講習内容を、我々も手にすることができる。山梨でも講師資格者の確保を行いつつ、講習会開催の準備を進めたい。

本連盟指導委員会の行事も、令和2年2月に雪山教室(一般公募・連盟会員参加可)の座学は行ったが、実践教室は中止。3月に金峰山登頂と御室小屋跡周辺泊の合同登山計画も中止として以降、行事は全て見合させてきている。新型コロナの収束が未だ見通せない

中、少しは冬山に入ろうではないかと企画の検討を行っているが見通しは暗い。(指導委員長 辻)

2022年海外登山 観花隊員の募集

令和4年6月に14日間程度、四川省にある5000m級の山を高山植物の調査をしながら登る観花隊の隊員を令和3年11月から募集を開始した。

四川省の成都から西に約1,000km離れた甘孜チベット族自治州にあり、キタダケソウ、タカネマンテマ、アツモリソウを思わせる花やブルーポピーが咲いている。費用は30万円程度を予定。募集は9~14名程度、隊長(国際委員長)を含めて10~15名程度の隊とし、参加する隊員の様子で5000mを超える未踏峰にキャラバンを組んでキャンプ地を上げながらの極地法での登山をするこども考えている。その他いくつかの参加条件がある。1月末で5名の応募があり、この日で締めきこととした。(国際委員長 今村)

医科学委員会の活動状況

スポーツクライミングの大会における負傷者発生時の救護活動は、令和2及び3年度と二年連続で、コロナ禍のために実施できていない。また、令和2年2月にはJMSCAスポーツクライミング医科学委員会委員長を招聘して、競技力向上と障害予防に関して、スポーツクライミング医科学講演会を予定していたが、こちらもコロナ禍のために延期となった。令和3年度も開催が困難の見通しであるため翌年度に先送りすることとした。令和4年度以降に救護活動、医科学講演会ともに開催できることを期待する。(医科学委員長 角田)

2021・2022年岳連カレンダー制作と販売

山梨岳連オリジナルカレンダーは、2021年版からA3二つ折りサイズに一新した。令和2年度は120を超える写真の応募があったが、3年度は62件と半減した。メールでの募集なので、岳連会員以外の方にもぜひ声をかけていただき自信作を積極的に応募される事を期待する。また、落選作品が多く惜しいのだが、①メインに何を撮りたいのか、②カメラが水平か、③近景・遠景のピントはどこか、④花など個体の写真はアップで撮るが周りの枯草除去がされていない、などちょっとした配慮が欠けている。

スマホのスナップ写真でも少し手を加えれば一眼レフに劣らない作品になるので、次回の作品に期待する。(カレンダー委員長 温井)

第62回木暮祭の開催

令和3年10月17日(日)、午前の五里山記念登山の後、木暮理太郎氏(1873-1944、群馬県出身)を偲ぶ「碑前祭」が金山平の顕彰碑前にて開催された。今回は上村北杜市長を迎える、「木暮氏と奥秩父」と題された講演も行われた。その講演の中で、木暮氏が、百貫の貢禄と金峰山を讃えていたことが紹介された。コロナの影響で、残念ながら二年続けて「きのこほうとう」は振る舞われなかつたが、その金峰山は

参加者をいたわるように悠然と構えていた。

(広報委員長 望月)

甲府市主催「山の日」記念事業への協力

甲府市は「山の日」を記念し、甲府名山のうち次の2山に登山事業を行った。岳連に引率依頼があり、各日6名ずつスタッフとして参加した。

令和3年7月31日 大弛峠から金峰山

同年10月16日 天神森市営駐車場から羅漢寺山

新会員「大菩薩山塾・山人会」の紹介

私たち大菩薩山塾・山人会は、自分が山に登る能力を身につけることは勿論ですが、人を山に案内できる技術と知識、人間性を身につけようという主旨で発足いたしました。

今年で10年を迎え、それを機に連盟に加入することを決めました。現在、会員は18名。弱小山岳会ですが、月3回の定例山行をはじめ年2回地元公民館との共催で、市民ハイキング等を実施しています。ハイキングに参加した方の中から会員となる人も出ています。

連盟に加入することで、他の山岳会との交流を図り、自然保護などより幅広い活動に繋げていきたいと考えています。よろしくお願ひいたします。

(菩薩山塾・山人会員 川島)

※菩薩山塾・山人会は、令和4年3月30日に加盟申請があり同年4月7日の理事会で加盟が承認された。

ヤマビルの生息域が広がっている

8月下旬雨上がりに櫛形山麓から中腹まで植林の山中を歩くとヤマビルがいた。数日後、身延町の三石山でも遭遇。皆に聞くと甘利山や芦安の山中など県内のかなりに広がっているとのこと。ネットで調べるとヤマビル研究会というサイトが充実している。都道府県ごとの確認記録があり、山梨は皆からの情報と一致しており、甲府市北部の武田の森にもいるとある。

今後はヤマビルとの共存は避けられない模様。その活動期は春から秋で通常地面に隠れていて動物の二酸化炭素に反応し寄ってくる。一列で数人が歩く場合、最初の人よりは最後の人が見つけやすい。対策としては入山前に忌避成分の入った虫除けスプレーを靴や靴下、ズボンの裾などに吹きかけておくと上がって来ないようだ。スパッツをするなら内側に吹きかけること。20%の濃い塩水でも良いようだ。ヤマビルが身体についたらアルコール噴霧や塩をかけるとナメクジと同じで落ちていく。ヤマビルは木の上から降ってくることはないということで、恐らく休憩時にザックや腰などについたヒルが血を吸いやすい首の辺りまで上がってくのではないかと思う。ザックや腰周辺に忌避剤のスプレーをすると、直接地面に座らない対策が必要。ヤマビルは皮膚が柔らかく吸いやすいところに移動し血液が固まらなくなり痛みを感じさせない物質(ヒルジン)を出して吸血するので、定期的に手の指の間とか足のすねのところなどを確認することをお勧めする。吸われても慌てず流水でヒルジンを絞り出すようなイメージで傷口をよく洗い抗ヒスタミン薬を塗ると良いとのこと。(理事長 望月)

寄稿 「2020 TJARに出場して」

日本海(富山湾)から太平洋(駿河湾)までその距離およそ415Km、北・中央・南アルプスを自身の足のみで8日間以内に踏破するTrans Japan Alps Race(トランジヤパンアルプスレース)。この大会を目指して7年、やっと魚津市ミラージュランドのスタート地点に立つことが出来ました。

ところが僅か1日半、日本海沿岸を進む台風9号の影響を受け、8月9日7時2分中止となり、距離にして約70kmの黒部五郎小舎で終わりとなってしまいました。自然の猛威の前では「しょうがない」としか言えませんでした。選手に渡される白いビブス。これを着て、ボロボロの身体で日本アルプスを駆け巡り、完走するという夢は叶いませんでした。

しかし、この大会に出たという誇りと感動は何事にも代えがたいものです。今まで必死に本気でやってきた経験を無駄にせずに、次に繋げたいと思います。多くの方々の支えが無ければ出来なかつた事です。

皆さま本当にありがとうございました。

(白鳳会会員 井出善啓)

理事会の開催と主な内容

【5月15日】①定期総会の議題、②役員改選案、③県体育功労者表彰・優秀選手表彰の推薦、④県知事等に対する陳情に係わる要望など／【6月2日】①常任理事・専門委員会正副委員長の選任、②専門委員会の活動方針策定・体制構築、③国体選手・監督の決定・関東ブロック大会への派遣など／【7月7日】①県体育祭りの開催案、②県及び市の「山の日」事業(記念登山等)の引率協力など／【8月4日】①SC委員会企画事業「やってみよう!スポーツクライミング2021」、②きのこ学習会の日程、④山岳レインジャーの進捗など／【9月1日】①2022年山梨岳連オリジナルカレンダーについて(写真の内容・配布数及びレインジャー活動費との精算)、②第62回木暮祭の対応、③岳連報95号の予定など／【10月6日】①個人会員に関する規程の改正、②年度後半の岳連事業など／【11月3日】①2022年山梨岳連オリジナルカレンダー配布、②国際委員会の報告・2022年海外登山計画案、③ホームページスポンサーへの依頼、④山梨岳連関係の各種名簿の整理、⑤令和4~5年度任期の自然公園指導員の推薦、⑥関東地区小中学生選抜クライミング選手権大会(群馬)への出場者など／【12月1日】①第8回関東地区小中学生選抜クライミング選手権大会の本県開催、②関東地区山岳連盟総会の協議事項・参考聴取事項、③JMSA公認スポーツクライミングC級審判員認定研修(関東ブロック)への参加者、④令和3年度高体連登山専門部加盟選手被表彰者(岳連会長表彰)の推薦など

スポンサー一覧 (順不同)

株式会社 早野組(甲府市東光寺)/エルク(甲府市徳行)/今井整形外科医院(甲府市上阿原町)/パイの家「エム・ワン」(北杜市大泉町)/芦安ファンクラブ(南アルプス市芦安)/そらのした(富士吉田市上吉田ほか)/金精軒(北杜市白州町)